

平成30年度 学校評価アンケート結果の分析と改善策について

今年度の学校評価に多数のご協力をいただき感謝申し上げます。以下のとおり集計結果をご報告いたします。
利府高をさらに良い学校へ、また活気溢れる学校にしていこうという生徒・保護者の皆様の思いや期待に添えるよう取り組んで参ります。
今後ともご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。
なお、集計結果（実現度調査）の詳細については、本校ホームページ[https://rifu-h.myswan.ed.jp/evaluated]をご覧ください。

実施日：平成30年11月2日（金）
回収日：平成30年11月15日（木）
対象：生徒（回答数801名 回答率98.3%）、保護者（回答数796名 回答率97.7%）、教職員（63名）
「よく出来ている」、「大体出来ている」、「あまり出来ていない」、「出来ていない」の4段階による評価

実現度調査の分析と改善策【全年次共通】

アイコン表記のルール 80%以上 60~79% 40~59% 40%未満

10%以上 0~9% 0%未満

Table with 5 main columns: 実現度調査 質問項目, 良好ととらえている割合, 前年度比, 分析, 改善策. It contains 19 rows of data, each with sub-rows for 生徒, 保護者, and 教職員, detailing survey results and improvement strategies for various school activities and facilities.

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大層出来ている」	前年度比	分析	改善策
⑭ 家庭学習を含めた自主・自立的な学習態度を育成している。	生徒  68% ➡ 2%	➡ 2%	回答は、ほぼ同様の傾向であった。例年と同様に生徒・保護者と教職員の差は依然として大きいものがある。生徒・保護者は学習時間に向かう子供の態度から、教職員は提出課題の出来映えで判断していると考えられる。	「予習→授業→復習」という学習サイクルを体験させるために各教科で実施している学習オリエンテーションをより充実させる。本校に入学した初期指導の充実により、高校生活にしっかり目的を持たせていく。課題や小テストなどを授業と連動させたり、日々の学習習慣を確立させ、基礎学力の定着を図りたい。また、宿題や課題は考える力を必要とする質的に工夫された内容となるよう取り組みを進めていきたい。
	保護者  65% ↓ -1%			
	教職員  33% ↓ -4%			
⑮ 進学先の学業に対応できる学力を養成している。	生徒  69% ➡ 1%	➡ 1%	保護者と生徒の回答は例年とほぼ同じであったが、教職員が46.1%（昨年度35.8%）と大きく上がり、生徒・保護者と教職員の差が例年より縮まった。学校全体として生徒の学力差を正確に把握し、成績上位層には高度な学習内容を与えている結果だと思われる。	授業では生徒に主体的に学ぶ姿勢を身につけさせ、基礎学力の定着を図っていきたい。また、課題や小テストなどをうまく組み合わせ学習内容を確実に定着させるとともに、成績上位層には今後も発展的な内容についても積極的に取り組ませる。進路指導部と連携、協力を図り、1・2年次からの啓蒙的な学習指導と進路指導を実施したい。また、教職員の研修会等を利用してしながら、新しい入試制度を念頭に置いた学習指導の研究を進めたい。
	保護者  63% ➡ 1%			
	教職員  46% ↑ 10%			
⑯ 3年間を見通した計画的・継続的な進路指導体制が確立されている。	生徒  78% ↓ -1%	➡ 8%	生徒、保護者、教職員とも約80%が肯定的な回答であった。教職員は否定的な回答もあるため、本校の進路指導については、様々な取り組みを行っているが、その手立てと効果について、教職員、保護者、生徒のそれぞれの立場で理解を高めて行くことが必要である。	利府高校として目標達成に向けて、進路指導のさらなる充実をめざす。次年度以降の中期目標の策定においては、生徒をより伸ばすための方針を定め、より効果の高い進路指導の計画を整理する。また取り組みに対しての教職員の共通理解を得ながら進めていく。
	保護者  74% ↓ -2%			
	教職員  75%			
⑰ 「総合的な学習の時間」における進路指導が充実している。	生徒  83% ➡ 0%	➡ 0%	保護者で否定的な意見が25%近くあるが、総合学習の目的や内容についての周知不足が要因と思われる。総合学習の内容については、進路指導面だけでなく、様々な要素が含まれている。すべての活動が将来の生き方に生かされている項目であるため、授業内容の周知を広めていく必要がある。	次年度の1年次からは「総合的な探究の時間」と名称も変わり、内容も変わっていくので、生徒・保護者・教職員が共通理解を持ち取り組めるように、対応していく。
	保護者  75% ➡ 0%			
	教職員  78% ➡ 0%			
⑱ 個に応じた適切な進路指導が行われている。	生徒  76% ↓ -2%	➡ 3%	生徒と保護者の受け止めが低い。84%の教職員が個に応じた指導を心がけているが、生徒と保護者の実感としては、個々への対応が不足していると感じている。学校の指導姿勢を説明するとともに、生徒の成長を第一とした、個々への対応が十分になされるよう取り組みが必要である。	3年次では、個々の進路希望に対応するために、個別指導も多くなる。1・2年次においても個々の生徒の状況に併せて、丁寧な指導を心がけていく。生徒との個別面談・ガイダンス、保護者との三者面談などを通して、生徒一人一人の悩みや考えを受け止め、対応できるようにしていく。
	保護者  70% ➡ 0%			
	教職員  84%			
⑲ 全校清掃、校内外の美化活動を実践している。	生徒  79% ➡ 0%	➡ 0%	肯定的な回答がいずれも高い割合となっており、校内美化・清掃について一定の評価があると考えられる。しかし、生徒の肯定的な回答が79%とやや低い。引き続き、生徒との認識の差を埋められるように努める。	環境美化は日常清掃の徹底が重要である。監督の教職員の指導と生徒の美化に関する意識を高めていく。一方校舎内外の老朽化に伴い、掃除をしてもきれいににならないという声もある。トイレ清掃など業者による清掃等を検討していきたい。
	保護者  87% ↓ -2%			
	教職員  84% ↓ -6%			
⑳ 「人の集まる図書館づくり」に努め、学習センターとしての機能が充実している。	生徒  64% ➡ 2%	➡ 6%	授業での活用や、放課後の自学学習、進路志向に関する調査利用等が多くなっており、学習センターとしての役割は果たしているが、利用の拡大について周知を続けて行く必要がある。	授業の活用時や図書館だより発行等を通じ、図書館利用の促進に向けた周知を図りたい。施設の利便性向上を考慮し、図書館で得た資料を自宅等でも活用できるように、来年度から図書室内に生徒用のプリンターを設置する。
	保護者  63% ↓ -5%			
	教職員  78%			
㉑ 衛生管理を徹底し、生徒の健康の保持増進に努めている。	生徒  77% ↓ -1%	➡ 1%	おおむね取り組みは評価されている。きめ細やかな注意喚起が生徒の健康の保持増進につながっていくので、引き続き、クラス指導や部活動を通じて対応していく必要がある。	保健だよりを定期的に刊行し、衛生面や健康について啓発している。感染症予防は、教室の換気、石鹸や手指消毒液の補充、マスクの提供などを中心に今後とも継続させていきたい。
	保護者  80% ↓ -1%			
	教職員  81% ↓ -3%			
㉒ P T A や同窓会活動の充実 に努めている。	生徒 — —	➡ 5%	P T A や同窓会活動について、参加の呼びかけを継続していることや行事に積極的に参加する会員がいることが評価されている。「あまり出来ていない」「出来ていない」と評価する保護者が20.0%になっていることは、行事等の案内が手元に届かないことや行事に対する関心が低いことが原因ではないかと考える。	PTA総会、年次PTA総会等において各部署との連携を深め、出席者が増加するように努める。会員研修や環境整備活動、利府高祭参加等についても参加案内の呼びかけを継続していく。本部役員だけでなく、会員の理解、協力が得られるように案内・広報を行い、さらにPTA活動が充実するように努める。
	保護者  80% ➡ 1%			
	教職員  95%			

実現度調査の分析と改善策【1年次】

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大層出来ている」	前年度比	分析	改善策
① 体験学習（オープンキャンパス参加）をとおして、学問研究の場に直接触れることにより、大学で学ぶ意義について学習し、進路に対する視野を広げる指導が行われている。	生徒  90% ➡ 8%	➡ 1%	生徒、保護者の80%以上が「よく出来ている」、もしくは「大体出来ている」といった肯定的な回答しており、体験学習の意義は概ね理解されていると思われる。	今年度から生徒の希望に沿った形で、オープンキャンパスへの参加を実施した。そのため、前年度に比べ、特に生徒たちの肯定的な意見が増加していた。事前・事後指導を充実させることで、より一層の進路意識の向上に繋げていきたい。
	保護者  82%			
② 継続的に週末課題と家庭学習時間調査を実施することにより、家庭学習の習慣化が図られている。	生徒  81% ➡ 5%	➡ 1%	生徒の80%以上が肯定的に回答している。しかし、保護者の肯定的な回答は70%未満に留まっている。特に保護者の目から見て、家庭学習が習慣化されていない現状が窺える。	週末課題の提出状況は概ね良好であるものの、一部では定着していない生徒も見られる。例年同様ではあるが、調査前の家庭学習時間は多いものの、それ以外の期間は少なく、年間をとおしての家庭学習時間の確保が課題である。
	保護者  69%			

実現度調査の分析と改善策【2年次】

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大層出来ている」	前年度比	分析	改善策
① 一日総合大学をとおして、実際の大学等の講義を体験し、進路選択についての意識を高める指導が行われている。	生徒  83% ↓ -3%	➡ 3%	生徒の83.3%が肯定的な意見であった。「進路選択の参考になった」と感じている生徒が多く、有意義な行事の1つとなっている。保護者は82.5%で生徒より若干多いが、これは昨年度から1年次・2年次対象に開催した、保護者向け進路講演会等の実施により、進路に対する関心が高まったことが理由と考えられる。	例年、肯定的意見の割合が多い質問項目であり、2年次の進路行事として軌道に乗っており、大きな変更は必要ないと感じている。保護者向けの進路講演会や、スタサボの活用により進路に関する意識付けが向上していると感じる。生徒が興味・関心をもつ分野・内容の講義をより多く設定することができれば、更なる教育効果が期待されると思われる。
	保護者  83%			
② 自学自習の習慣を定着させるため、週末課題と家庭学習時間調査の実施が継続的に行われている。	生徒  81% ↓ -3%	➡ 1%	保護者の肯定的意見の増加が目立つ。週末課題に取り組むことが習慣化し、家庭で学習する生徒が増加したものと考える。	年次が上がり自覚を持つ生徒も増えている反面、家庭で週末課題を行う習慣が身に付いていない生徒もいる。「やらされている」学習から、自主的に取り組む、自学自習の習慣を定着させていきたい。
	保護者  79%			

実現度調査の分析と改善策【3年次】

実現度調査 質問項目	良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大層出来ている」	前年度比	分析	改善策
① 放課後や夏季休業中の課外講習を計画的に実施することにより、恒常的な学習習慣を確立させる。	生徒  80% ➡ 4%	➡ 4%	昨年度と比較して若干ではあるが、肯定的意見は生徒では増加し、保護者では減少している。対象が受講した生徒に限られるため、肯定的回答が多いと考える。	課外講習の期間や時間を拡充することが改善策として考えられるが、部活動やその他の業務との兼ね合いがある。本校の実情を踏まえれば、現状の工夫と個々の生徒に添削指導を行う等の個別指導の拡充も考えられる。
	保護者  76% ↓ -4%			
② 希望する進路に応じたガイダンスや学習会を実施し、より明確な目標と学習計画が立てられるような指導が行われている。	生徒  78% ➡ 5%	➡ 5%	昨年度と比較すると若干ではあるが、肯定的意見は生徒では増加し、保護者では減少している。「総合的な学習の時間」の中で、希望進路別に「進路研究」を行ったために実感が高まったのではないかと考える。	「総合的な学習の時間」を活用しながら、時宜を得た指導を心掛けてきたが、進路先が決定した生徒は進路学習へのモチベーションが大きく下がることもあり、指導が難しい。模試の結果等を活用し、生徒個々への働きかけを強めることができれば、改善できる部分はあると思う。
	保護者  74% ↓ -5%			